

跡見塚古墳群「金銅製馬具・金銅製頭椎大刀柄頭」

(あとみづかこふんぐん「こんどうせいばぐ」「こんどうせいかぶつちのたち」)



作者	—
年代	—
材質形状	金銅製
大きさ(cm)	柄頭：約 9.0×6.0
指定	須賀川市指定文化財
その他	

跡見塚古墳群（柱田字跡見塚）は、岩瀬中学校東部にある標高 300m 未満の独立墳丘上に立地します。昭和 30 年代の開田で、その大半が掘削により破壊されたため正確な規模は不明ですが、小墳丘数十基が確認され、その一部は発掘調査が実施されました。

当時の記録によれば、小形の竪穴式石室を有する全長 10m 前後の円墳が多く、箱式石棺や粘土郭が確認されています。共伴関係は不明ですが、副葬品も多数出土しています。金属製品では、金銅製頭椎大刀柄頭や直刀、銀象嵌鐔などの刀装具、辻金具などの金銅製馬具が出土したほか、玉類では、勾玉、管玉、ガラス小玉などの装身具が出土しました。これらの遺物の年代から、古墳群全体は 6 世紀後半から 7 世紀初めに築造されたと考えられます。

そのなかでも頭椎大刀柄頭は、当時の社会をうかがい知るうえで有力な遺物です。頭椎大刀は、6 世紀中ごろに朝鮮半島からもたらされた円頭大刀を祖形に日本で発展した儀仗刀で、権威の象徴でした。畿内の有力者から岩瀬地方の豪族にもたらされたと考えられるこの遺物は、権力者である大和朝廷と各地の豪族がつながりを持っていたことを示しています。

・刊行物

「須賀川のたからもの - 須賀川市立博物館名品集 - 」 2019.3 45P